



## あらたな戦前にさせない！守ろう平和といのちとくらし 2023憲法大集会

五月晴れの5月3日、有明防災公園で開催された表記の集会に参加しました。新型コロナ流行後で最大規模となる2万5000人が参加。国会前集会をはじめ全国で集会が開かれました。集会実行委員会の高田 健さん（総がかり行動実行委員会共同代表）が開会挨拶。「今、あらたな戦前にさせない！が現実味を帯びた言葉となっており、私たちはその分水嶺にいます。岸田首相は『来年9月までの任期中に改憲を実現する』と公言しています。この憲法大集会の場から、絶対に戦争も憲法改悪も許さないために、たたかいぬきましょう。」と訴えました。

共産党・立憲民主党・れいわ新選組・社民党の代表があいさつ。その後、市民や学者らのスピーチがあり、市民連合新潟共同代表の佐々木 寛さんは「日本国憲法が背骨から砕かれようとしている。私たちは、いつの間にか戦争に巻き込まれようとしている。次の世代のために私たちができることを最大限一緒にしよう」と訴えました。集会後パレードが行われました。

世論調査でも43兆円もの大軍拡には50%が反対、軍拡増税には68%の人が反対しています。今こそ国際協調による平和を謳った日本国憲法の精神を活かすべき時です。あらゆる手段を駆使して戦争をさせない世論を広げましょう。（代田5丁目・小澤 清子）



### 「軍事大国」への道を歩む

昨年末の「防衛3文書」の閣議決定、新年早々の訪米でのバイデン政権への報告、予算編成での防衛費の大幅増額、そして、敵基地攻撃能力兵器の保持、と大軍拡への道を、岸田政権は突き進んでいます。

外国の人たちはどう見ているのかと思っていたら、アメリカの雑誌TIMEが、2023年5月22/29日号の表紙に、4月28日に行ったインタビューをまとめて、岸田首相を登場させました。見出しは「JAPAN'S CHOICE」で要約として、「何十年もの平和主義を投げ捨て、真のMilitary Powerを作りたいと考えている」となっています。記事の中では、「アメリカなどとの同盟関係を強化し、50%以上の防衛費を増額し、経済力に見合った軍事的な大国にしようとしている」と記載しています。

5月12日には、岸田首相自身が「中身と見出しに、あまりに違いがあるのではないか」とコメントしたと伝えられており、外務省が書き換えるように要求をした、とも伝えられています。

5月15日現在で、TIMEのホームページを閲覧すると、その号のUS版の表紙はイギリスのチャールズ国王の写真に差し替えられていますが、Asia版では引き続き、岸田首相の表紙が掲載されています。

<https://time.com/magazine/asia/>

国内では、ウクライナ侵略や、北朝鮮によるミサイルの度重なる発射、中国の海洋進出などを強調することで、「軍事大国」への道というより、「防衛力強化」という言い方が、マスコミ論調を含めて、かなり通用しています。この間の国会での論戦などで、敵基地攻撃兵器の実態が明らかになりつつあることや、国民負担が大幅に増えてしまうことなど、国民を犠牲にして軍事大国への道を進もうとしていることが少しづつ明らかになってきています。

外国、特にアメリカのジャーナリストから見ると、昨年来の岸田政権の行っていることは、はっきりと軍事大国への道と映っているのだ、と感じました。

こうした道へ進むことは決して国民のためにはなりません。何よりも国民のいのちと暮らしを大事にしていくことが必要です。（代田2丁目・伊東 宏）



# ドイツはどのようにして脱原発に至ったのか

ドイツでは早くから激しい原発論議があり、原子力に批判的な市民の声が多かったのです。1980年に環境保護派が脱原子力政策を目標とする緑の党を結成、高い支持を得ました。そうしたなか1986年4月チェルノブイリ原発の重大事故でドイツも放射能汚染の被害を受け、原子力への不信感から、緑の党の支持率はさらにアップしました。

2001年、シュレーダー首相（社会民主党、緑の党連立政権）と電力事業者が原発増設の禁止、既存原発の運用32年などを含む脱原子力法に署名、翌年施行されました。

2005年キリスト教民主同盟のメルケル首相になり脱原子力政策を引き継ぐことにしたのですが、2010年に産業界の意向で12年の運転延長を決めました。

けれども2011年3月福島第一原発事故を受け即刻8基を閉鎖、残る9基を22年までに順次閉鎖する閣議決定をしました。この早急な決定にはハイテク国家の日本でも原発事故を防げなかったことに衝撃を受け原発のリスクは完全には除けないのだと強い危機感を持ったことが背景にあったと言われています。

しかし2022年末最後の3基を停止する予定がロシアのウクライナ侵攻によりエネルギー供給不足が生じ、脱原発は先送りになりました。そして今年4月15日すべての原発が停止され、60年に及ぶ原発の歴史に幕を閉じたのです。停止されたこの日、ベルリンのブランデンブルグ門の東側では脱原発派は喜びの声を挙げ、西側では原発推進派が集会を開くなど意見が分かれています。

エネルギー価格の高騰に対しては、省エネを強化し、一時的に火力発電の充実を図りながら、再生可能エネルギーの増産に取り組んでいます。現在再生可能エネルギーは全電力の45%を上回り2035年には100%賄う方針を立てています。

一方、日本では事故原発の処理もままならず、核廃棄物の捨て場所もない。それなのに岸田首相は老朽原発の稼働延長、新原発建設の大転換に舵を切ることを決めたのです。地震大国の日本で原発はリスクが大き過ぎます。ドイツを見習って再生可能エネルギーに本気で取り組んでほしいと切に願います。

(代田5丁目・日暮恵子)

## 集会等の紹介

5月26日(金) 18:50 予定～

生かそう憲法！今こそ9条を！世田谷の会 第19回総会

記念講演「軍事大国化と私たちの暮らし」

望月衣塑子さん(ジャーナリスト)

場所：梅丘パークホール(小田急線・梅ヶ丘駅下車 徒歩3分)

主催：生かそう憲法！今こそ9条を！世田谷の会

\*\* 18時15分からは、会の総会が行われます。 \*\*

5月28日(日) 13:00～16:30

大軍拡反対、憲法改悪を止めよう！九条の会全国交流集会

大江健三郎さんの志を受けついで

場所：日本教育会館・第一会議室

(東京都千代田区一ツ橋 2-6-2)

主催：九条の会事務局



## 日本国憲法(抜粋)

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。

国の交戦権は、これを認めない。

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、  
「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～  
+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++